

# Oho~!! Ramailo Jiwan in Nepal



相も変わらず暑いですね。電気がなく(=冷房がない)、暑い暑いネパールの生活に体が慣れきっていて、日本の冷房に慣れず、自室も車も、冷房のスイッチを押すことはない生活を送ってきました。が、福岡の連日の暑さにとうとう耐えきれず、数日前から文明の利器のスイッチに、朝一番に手を伸ばしています。(という文章は先週書いていましたが、今週は異様に涼しいですね。。トンボが飛んでいました)

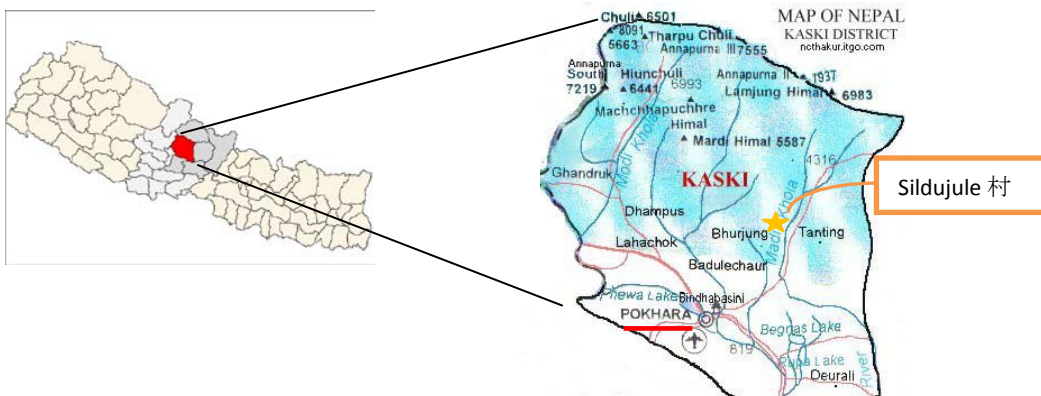
さて、今回は最終回。最終回のトピックは「**ネパールでの失敗談**」で終わらせていただきたいと思います。

以前、失敗したことは数え切れないほどある、と書かせていただきました。失敗談を聞いてみたい、とのお声がありましたので、数ある失敗談の中から一つお話させていただきたいと思います。

## 失敗談

数ある失敗のうちの一つは、ヘルスクリニックの責任者と関係を築けず、マネージメントに口を挟んでいくタイミングを間違えたこと。

場所は僻地、Sildujule 村。



この村のクリニックは上手くいきそうで全く上手くいっていないマネージメント問題を抱えていました。例えば、5人いるスタッフのうち、高給取りの3人(責任者を含めて)はほとんどオフィスにこないうえに、ミーティングは一度も開かれず、夜、男性部屋で男性スタッフだけのおしゃべりで全ての仕事に関する話は決まっている(←日本の会社のタバコ部屋も同じ仕組みですね)。そのため、スタッフ間に不満が充満。また、毎年20万円近い予算がおりているにも関わらず、「お金は使うのではなく、貯めるものだ」という責任者の考えのもと、お金は使われず、何も必要物品がありません。(数年前まで注射器は使いまわしだったとか!!) 救いは、下っ端であっても、まじめに働く二人がいたこと。

外国人の小娘で、(ネパールで憧れの職業である)医療従事者でもない私が、医療従事者であるクリニックスタッフのマネージメントに口を挟むよりは、と、私がリーダーとなって、村落部で仕事をしてきた協力隊員とそのカウンターパートを集めて、「村落部の保健問題の発見と改善」に関する研修会を、有名なネパール人の講師招いたものを企画し、一緒に参加してもらいました。他にも、村人とヘルスクリニックの交流の機会をつくって、村人から日頃言えないサービスの向上を発言する機会をつくってみたり、スタッフと同じ釜の飯をたべて、関係作りにつとめたり。全ては、Sildufule村のマネージメント及びサービス向上のためにです!!!

そのように、周りから仕込みに仕込むように、仕事を行ってききましたが、ある日のことがきっかけとなって、ダイレクトにマネージメントに関して口を挟むようにしました。その日は、陣痛でクリニックに2時間かけて山道を(陣痛中にですよ!)歩いてきた女性を、助産師二人が、明日は休日でポカラの家に今日のジープで帰るから、クリニックで産ませられない。ポカラの病院にでもいけ、と言います。ちなみに、当時雨期であったため、ポカラまでは、ジープ(土砂崩れが起こってない所まで来てくれます)乗り場まで1時間半の山道+ジープ3時間+バス40分であるにも関わらず!!さらに、その妊婦さんはカーストの一番下の位、ダリット。道中にあった、カースト最高位のバフンのお宅に入ることも、そこで出産することも、バフンのお宅から、人を運ぶためのドコという人を担ぐためのものを借りることも許されず、結果、山道で雨の中、出産してしまいました。(冒頭の写真の女性が、実は道で出産した方です。赤ちゃんはその時の子。)

この件は、母子ともに命に関わったこと。これには、なぜヘルスクリニックで産ませてあげられなかったのか、と怒り心頭です。これを機に、この反省会を含めて毎月ミーティングを開くことをすすめ、スタッフのスケジュール共有、スタッフの目標設定、資金管理、妊婦・病人・けが人を村の各所から運ぶ担架の設置(道路がないのです!)など、このままでは私があるあと、1年少しの間では到底成果が見えないと、どしどしと試みました。郡保健事務所の事務所長も入れて、今後どうするのか、話合う場も設けたこともあります。が、外国人の小娘に、50代のオヤジ(50代の責任者であるヘルスワーカー(医者ではありません))が、口を挟まれ嫌がるのは目に見えてわかります。かつ、相手はすべてがゆったりと流れ、日本で半日で終わる仕事を1週間かけて行うと言われるネパール人。結果、私の介入とそのスピードは不信感を招くだけに終わってしまいました。

私からすると、Sildujule村のヘルスの根本的な問題はクリニック側にあると思いましたが、クリニックスタッフは、まさか学がある自分たちのほうにあるとは思っておらず、字が読めない村人のせいで、クリニックの成績はよくないと思っています。今思うと、村人を対象とした仕事をスタッフとともに行き、もっとスタッフから信頼を得て、立ち位置を確実なものにしてから、マネージメントにゆっくりと着手すればよかったです。

その後このクリニック、まじめに働いていた二人のうち一人は契約更新されず、もう一人は諸事情で村を離れました。残りの3人のうち、一人は定年退職、もう一人の助産師は、「こんな山奥にはこない」宣言をし、給料だけは日々もらってポカラでくらしている状態。と、最後の最後まで全くもって上手くいかず、わたしももう一つの村の仕事のほうに軌道にのって、足が遠のいてしまったのが現状です。街からも遠く離れ、村唯一のクリニックも開いていないとあっては、村人の健康が良くないのは当たり前。そんな村にほとんど貢献できなかったことは、心残り、自分の力のなさを心の底から思い知らされました。自分の力のなさと向き合うと恥ずかしく、情けなく、反吐がでそう。

ネパールでの経験から、村落一帯となった保健医療、また、いかに草の根レベルの問題を政策レベルで取り上げるか、といったことを大学院では学ぶつもりです。将来は、こんな今は未熟な自分であっても、いい変化が起こせる人間になりたい、と思っています。

出発はいよいよ今週末です。進学する大学の、今の在學生、昨年、一昨年の卒業生に連絡をとって、情報をいろいろもらっていたのですが、相当、相当、相当勉強しなければいけないとのこと。心も(身も!!)引き締めて頑張ります。

最後になりましたが、字と句読点の誤りだらけのこの拙い文章にお付き合いいただきまして、本当にありがとうございました！みなさまのご活躍を陰ながら応援しております。地球のどこかでフェリベトーン！！



渋谷朋子

### <余談>

ちなみに、数日前の月夜は素晴らしかったです！ネパールで、停電の時間が重なった満月の夜ほど、月明かりが美しい日はありません。月明かりに浮かび上がるヒマラヤは何時間みても見飽きません。そんな日は、寝袋をもって家の屋上でねちゃいます。満点の星空と満月、ヒマラヤが身体を包み込んでくれているようで、気分は最高です。月明かりで陰ができる、なんてことがないほど、電気があちこちにあふれている日本。そんな日本では、月は遠く、月によってできる陰もなく、寂しい思いもしばしば。ですが先日は、夜中にふと目を覚ますと眩しいほどに月明かりが部屋の中に差し込んできていて、幻想的でした。ぜひ皆さんも、ふとしたときに月を見上げてみてください。